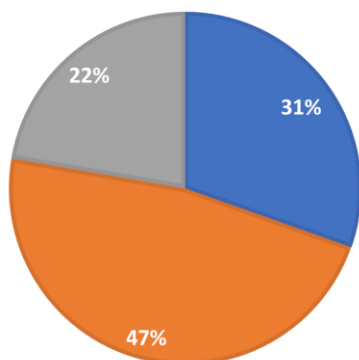


後学期授業実施に関するアンケート2020の解析結果

- ・前学期授業終了日に全学生に対して一斉送信メールで回答依頼。Googleフォームを使用したWebアンケート。
- ・回答数は、1年次生271、2年次生217、3年次生174、4年次生139、全体として約40%の回答率。

後学期授業実施方法の希望

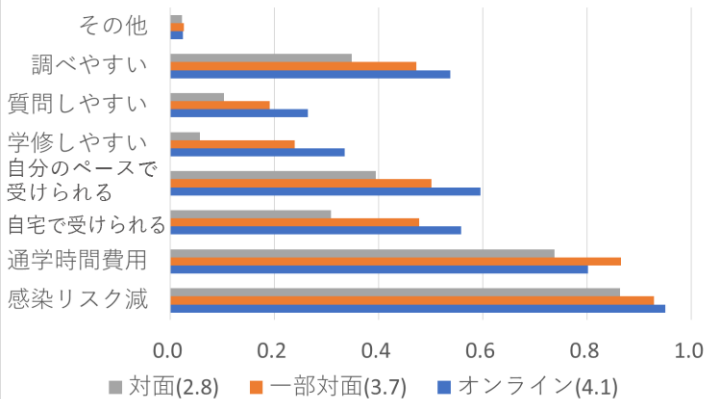
■ すべてオンライン ■ 実験等一部を対面 ■ できるだけ対面



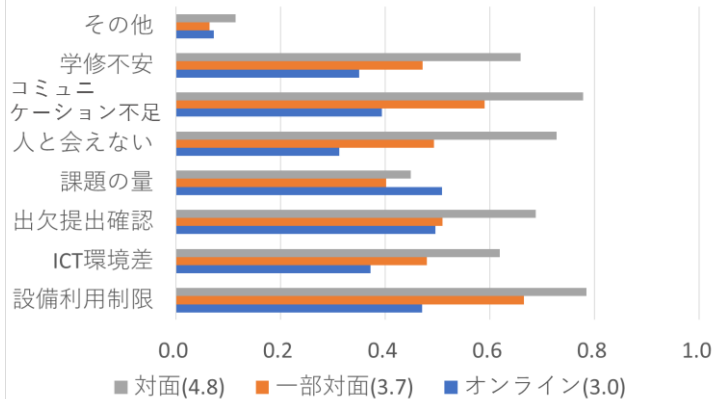
後学期授業実施方法の希望に関して

- ・通学時間の影響は、2時間以上あるいは通学不可ではオンライン希望が増える。
- ・通信環境や使用機器については、スマートフォンのみ（全体の6.7%）で受講している学生で対面希望が40%程度になっている。
- ・オンライン授業を望む学生は、環境面だけでなく学修面でのメリットも感じている。
- ・一方で、対面を望む学生は、コミュニケーション面でのデメリットを重視しているほか、学修面でも不安を感じている。

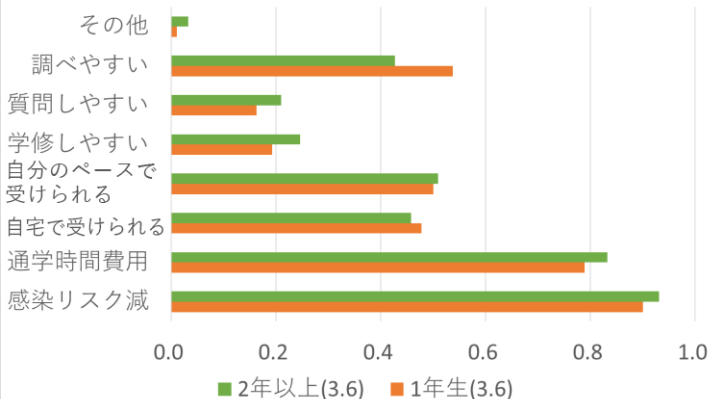
オンライン授業の良い点



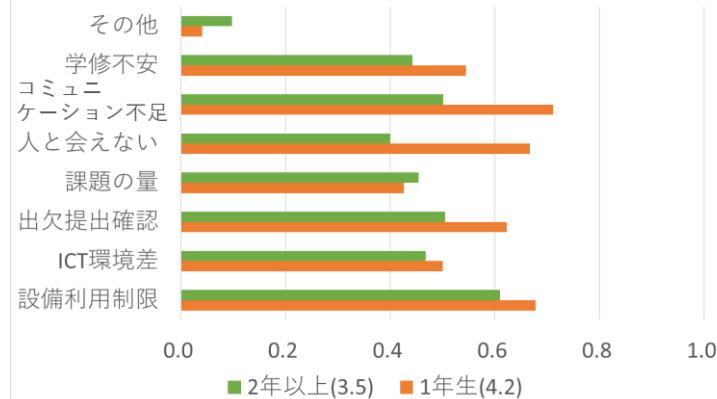
オンライン授業の問題点



オンライン授業の良い点・学年比較



オンライン授業の問題点・学年比較



オンライン授業に対しては、1年生の方が2年生以上よりも問題点を強く感じている。

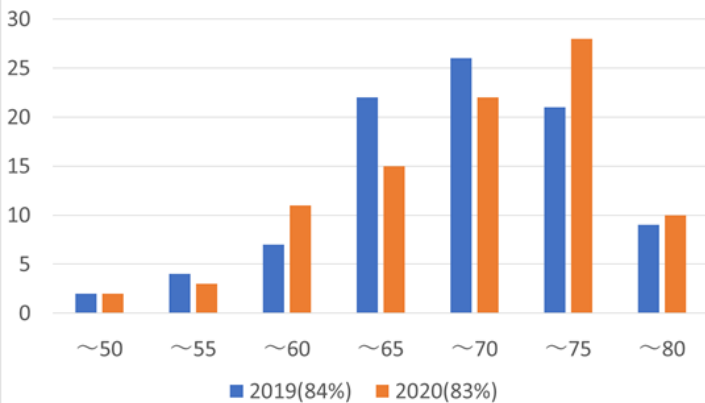
※凡例の（ ）内に示した数字は、選択肢からの平均選択数。

授業評価アンケート2020前学期の解析結果

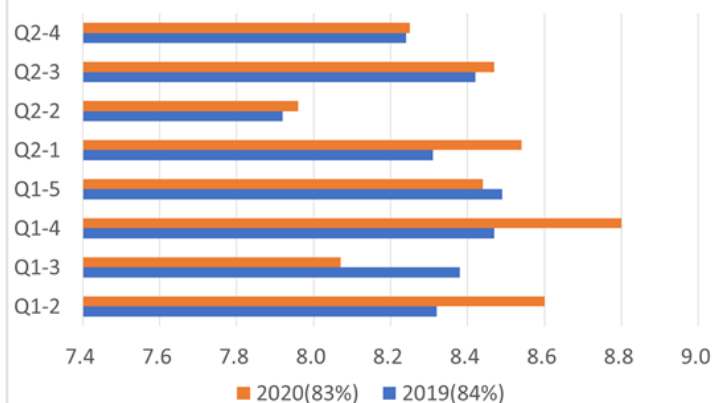
- ・オンライン授業の影響を評価するため、2019年度前学期と同一科目、同一担当常勤教員の授業91件についての結果を整理し、比較したもの。
- ・アンケートの実施方法は、2019年度は第13～14週の授業時に事務職員が受講者に回答用紙を配布し、その場で記入させて回収、2020年度はWebアンケートを第15～16週の授業中に回答あるいは授業終了時にアナウンス。今回の分析対象とした授業での平均回答率は、2019年度が84%、2020年度が83%と、ほとんど差はない。
- ・アンケートの設問は下表の通り。設問1-1から2-4は各10点満点。設問3は当てはまるとするものを選択。設問1-1と1-6はオンライン授業対応のために内容を大きく変えたため、今回の分析からは除いた。したがって、総合評価点は80点満点となる。

	2020	2019
1-1	教員と学生の間の双方向のやり取りが十分におこなわれていますか	学生の主体的な学びや授業への積極的な参加を促す、工夫や雰囲気作りがされていますか
1-2	配布資料、説明動画、教科書などは効果的に使われて、授業理解に役立っていますか	教科書、配付資料、視聴覚機器、板書などは効果的に使われて、授業理解に役立っていますか。
1-3	教員は学生の反応や理解度を確認しつつ授業を進めていますか	教員は学生の反応を確かめつつ授業を進めていますか。
1-4	予習・復習をおこなうための適切な指示や、課題提示がなされていますか	予習・復習をおこなうための適切な指示や、課題提示がなされていますか
1-5	提出した課題やレポート、質問などに対して、適切な説明や指導がおこなわれていますか	提出した課題やレポート、質問などに対して、適切な説明や指導がおこなわれていますか
1-6	学生同士が意見交換したり質問などを共有したりする機会や場がありますか	授業の出席確認がおこなわれ、その結果がCampus Square上にアップされていますか
2-1	授業の内容は授業ガイダンス等で事前に説明され理解したものと合っていますか	授業の内容は、シラバスの記述や授業ガイダンスでの説明からイメージしたものと合っていますか
2-2	好奇心を刺激したり、意義や必要性を感じさせたりして、学ぶ意欲を高める内容になっていますか	好奇心を刺激したり、意義や必要性を感じさせたりして、学ぶ意欲を高める内容になっていますか
2-3	この授業の到達目標となっている知識や技能を、しっかり学べる内容になっていますか	この授業の到達目標となっている知識や技能を、しっかり学べる内容になっていますか
2-4	この授業を受けてよかったと感じていますか	この授業を受けてよかったと感じていますか
3-1	必要な情報を収集する力	必要な情報を収集する力
3-2	学んだ知識や技能を役立てる力	学んだ知識や技能を役立てる力
3-3	興味や関心の範囲を広げる力	興味や関心の範囲を広げる力
3-4	学びや作業を振り返り改善する力	学びや作業を振り返り改善する力
3-5	作文やプレゼンテーションなど表現する力	作文やプレゼンテーションなど表現する力
3-6	他者との対話や協働作業をおこなう力	他者との対話や協働作業をおこなう力

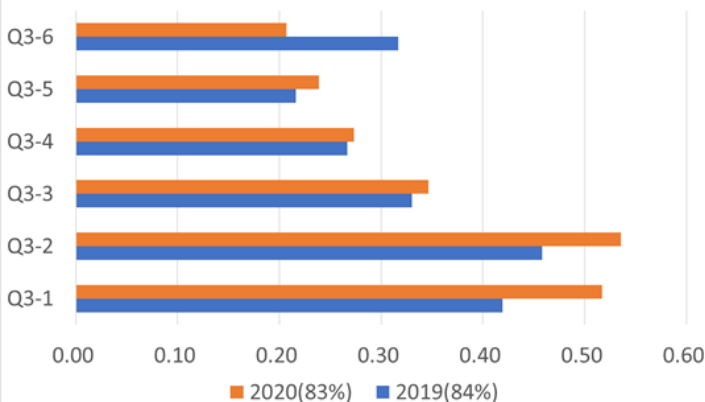
授業評価合計点分布の比較



授業評価項目ごとの平均点比較

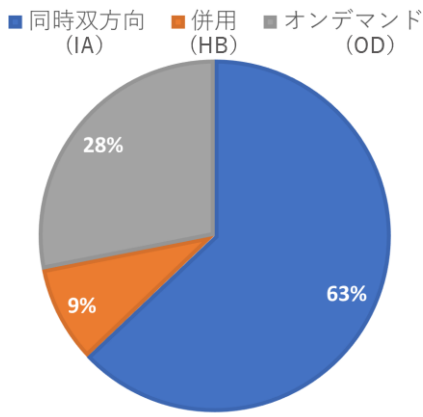


身についた力の選択率比較



- ・総合評価点の分布では、2020年度の方がやや高得点側にシフトしているように見える。
- ・項目ごとの平均点で2020年度が上回っている3つは、資料類を使った説明や指示に関わるもの。オンライン対応のために、レベルアップしたものと考えられる。一方で、下がっているのは教員による学生の反応確認と対応。
- ・身についた力の選択率では、情報収集力と知識技術の活用力で、2020年度が上回っている一方、協働力は下がっている。

オンライン授業形態の割合

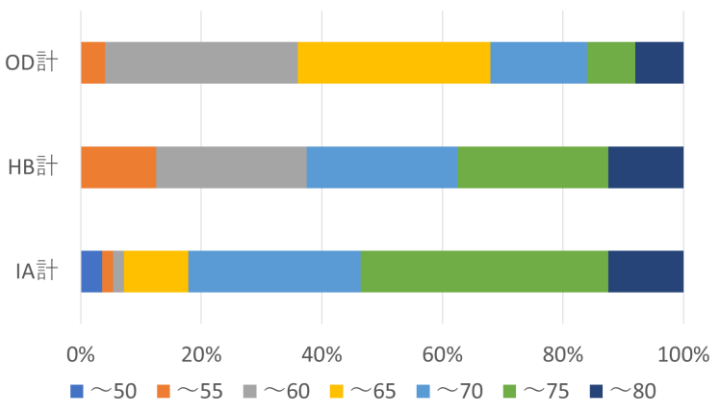


・5月に別途おこなったオンライン授業に関する学生アンケートの結果から、対象とした授業では、同時双方向授業の割合が60%以上となっている。

・総合評価点においては、同時双方向に比べてオンデマンド型が明らかに低くなっている。一方で、身についた力の選択率では、明らかに差があるのは協働力のみで、それ以外ではむしろオンデマンド型の方が高い場合もある。

・この結果は、授業評価に対して、教員と学生間のコミュニケーションレベルが影響していることを示唆するものと考えられる。

授業形態別総合評価点分布



身についた力選択率 (授業形態・学年別)

